

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【リテラシーレベル】令和8年度申請用

様式1

大学等名	帝京短期大学
プログラム名	TJC 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違する
② 対象となる学部・学科名称	生活科学科、こども教育学科(通信教育課程含む)
③ プログラム履修必須の有無	令和6年度以前又は令和7年度より、履修することが必須のプログラムとして実施
④ 修了要件	本プログラムを構成する「情報基礎演習Ⅰ」1単位および「情報基礎演習Ⅱ」1単位の計2単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	2	科目
	2	単位

		モデルカリキュラム対応状況																						
授業科目		単位数	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他	
(1) 必須科目 (プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	情報基礎演習Ⅰ	1	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○											
	情報基礎演習Ⅱ	1							○	○	○	○												
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																								
(2) 選択必須科目 (プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																								
(3) 選択科目 (プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																								

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「情報基礎演習Ⅰ」 ・第4次産業革命「情報基礎演習Ⅰ」
	1-6	・AI最新技術の活用例「情報基礎演習Ⅰ」 ・基盤モデル、大規模言語モデル「情報基礎演習Ⅰ」
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報基礎演習Ⅰ」 ・データのメタ化「情報基礎演習Ⅰ」 ・構造化データ、非構造化データ「情報基礎演習Ⅰ」 ・データのオープン化「情報基礎演習Ⅰ」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「情報基礎演習Ⅰ」 ・対話、コンテンツ生成など生成AIの応用「情報基礎演習Ⅰ」
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析「情報基礎演習Ⅰ」 ・データ可視化「情報基礎演習Ⅰ」 ・マルチモーダル、生成AIの活用「情報基礎演習Ⅰ」
	1-5	・データサイエンスのサイクル「情報基礎演習Ⅰ」 ・教育、芸術等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報基礎演習Ⅰ」
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「情報基礎演習Ⅰ」 ・個人情報保護「情報基礎演習Ⅰ」 ・データ倫理「情報基礎演習Ⅰ」 ・AI社会原則「情報基礎演習Ⅰ」 ・データバイアス「情報基礎演習Ⅰ」 ・データガバナンス「情報基礎演習Ⅰ」 ・生成AIの留意事項「情報基礎演習Ⅱ」
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報基礎演習Ⅰ」 ・ユーザ認証と、アクセス制御「情報基礎演習Ⅰ」 ・サイバーセキュリティ「情報基礎演習Ⅰ」
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類「情報基礎演習Ⅰ」 ・データの分布と代表値(平均値)「情報基礎演習Ⅰ」 ・データのばらつき(標準偏差)、外れ値「情報基礎演習Ⅰ」 ・相関と因果(相関係数、疑似相関)「情報基礎演習Ⅱ」 ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「情報基礎演習Ⅱ」 ・クロス集計表「情報基礎演習Ⅱ」
	2-2	・データ表現(散布図、箱ひげ図)「情報基礎演習Ⅱ」 ・データの比較「情報基礎演習Ⅱ」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報基礎演習Ⅱ」
	2-3	・データの取得「情報基礎演習Ⅱ」 ・データの集計「情報基礎演習Ⅰ」 ・データの並び替え、ランキング「情報基礎演習Ⅱ」

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

デジタル社会において、データサイエンス・AIが社会や専門分野でどのように活用されているか理解し、データ活用、プレゼンテーションの方法、情報の取り扱いについて修得することにより、データサイエンス・AIに関する様々な知識やスキルを日常生活や職業生活において活用することができる。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【リテラシーレベル】令和8年度申請用

様式1

大学等名	帝京短期大学
プログラム名	TJC 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違する
② 対象となる学部・学科名称	ライフケア学科 臨床検査専攻
③ プログラム履修必須の有無	令和6年度以前又は令和7年度より、履修することが必須のプログラムとして実施
④ 修了要件	本プログラムを構成する「情報科学Ⅰ」1単位、「情報科学Ⅱ」1単位、「医療統計学」2単位の計4単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	3	科目
	4	単位

授業科目		単位数	モデルカリキュラム対応状況																					
			1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他	
(1) 必須科目 (プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	情報科学Ⅰ	1	○	○	○	○			○	○	○													
	情報科学Ⅱ	1					○	○				○	○											
	医療統計学	2								○	○													
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																								
(2) 選択必須科目 (プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																								
(3) 選択科目 (プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																								

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化 (第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI「情報科学Ⅰ」 ・Society 5.0「情報科学Ⅰ」
	1-6	・AI最新技術の活用例「情報科学Ⅱ」
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ「情報科学Ⅰ」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「情報科学Ⅰ」
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ可視化「情報科学Ⅰ」 ・生成AIの活用「情報科学Ⅰ」
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題解決に向けた提案)「情報科学Ⅱ」
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「情報科学Ⅱ」 ・データ倫理「情報科学Ⅱ」
	3-2	・暗号化と復号、ユーザ認証「情報科学Ⅱ」 ・サイバーセキュリティ「情報科学Ⅱ」
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報科学Ⅰ」「医療統計学」 ・データのばらつき(分散、標準偏差)「情報科学Ⅰ」「医療統計学」 ・相関と因果(相関係数)「情報科学Ⅰ」「医療統計学」 ・クロス集計表「情報科学Ⅰ」
	2-2	・データ表現(散布図、箱ひげ図)「情報科学Ⅰ」「医療統計学」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(プレゼンテーションなど)「情報科学Ⅰ」
	2-3	・データの取得「情報科学Ⅰ」 ・データの集計「情報科学Ⅰ」 ・データの並び替え「情報科学Ⅰ」

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

デジタル社会において、データサイエンス・AIが社会や専門分野でどのように活用されているか理解し、データ活用、プレゼンテーションの方法、情報の取り扱いについて修得することにより、データサイエンス・AIに関する様々な知識やスキルを日常生活や職業生活において活用することができる。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【リテラシーレベル】令和8年度申請用

様式1

大学等名	帝京短期大学
プログラム名	TJC 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違する
② 対象となる学部・学科名称	ライフケア学科 柔道整復専攻、柔道整復専攻(二部)
③ プログラム履修必須の有無	令和6年度以前又は令和7年度より、履修することが必須のプログラムとして実施
④ 修了要件	本プログラムを構成する「コンピュータ演習Ⅰ」1単位および「コンピュータ演習Ⅱ」1単位の計2単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	2	科目
	2	単位

		モデルカリキュラム対応状況																					
授業科目		単位数	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他
(1) 必須科目 (プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	コンピュータ演習Ⅰ	1	○	○	○	○	○	○					○										
	コンピュータ演習Ⅱ	1							○	○	○	○											
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																							
(2) 選択必須科目 (プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																							
(3) 選択科目 (プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																							

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「コンピュータ演習Ⅰ」 ・第4次産業革命「コンピュータ演習Ⅰ」
	1-6	・AI最新技術の活用例「コンピュータ演習Ⅰ」 ・基盤モデル、大規模言語モデル「コンピュータ演習Ⅰ」
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データのメタ化「コンピュータ演習Ⅰ」 ・構造化データ、非構造化データ「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データのオープン化「コンピュータ演習Ⅰ」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「コンピュータ演習Ⅰ」 ・対話、コンテンツ生成など生成AIの応用「コンピュータ演習Ⅰ」
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データ可視化「コンピュータ演習Ⅰ」 ・マルチモーダル、生成AIの活用「コンピュータ演習Ⅰ」
	1-5	・データサイエンスのサイクル「コンピュータ演習Ⅰ」 ・教育、芸術等におけるデータ・AI利活用事例紹介「コンピュータ演習Ⅰ」
(4)活用に応じた様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「コンピュータ演習Ⅰ」 ・個人情報保護「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データ倫理「コンピュータ演習Ⅰ」 ・AI社会原則「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データバイアス「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データガバナンス「コンピュータ演習Ⅰ」 ・生成AIの留意事項「コンピュータ演習Ⅱ」
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「コンピュータ演習Ⅰ」 ・ユーザ認証と、アクセス制御「コンピュータ演習Ⅰ」 ・サイバーセキュリティ「コンピュータ演習Ⅰ」
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データの分布と代表値(平均値)「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データのばらつき(標準偏差)、外れ値「コンピュータ演習Ⅰ」 ・相関と因果(相関係数、擬似相関)「コンピュータ演習Ⅱ」 ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「コンピュータ演習Ⅱ」 ・クロス集計表「コンピュータ演習Ⅱ」
	2-2	・データ表現(散布図、箱ひげ図)「コンピュータ演習Ⅱ」 ・データの比較「コンピュータ演習Ⅱ」 ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「コンピュータ演習Ⅱ」
	2-3	・データの取得「コンピュータ演習Ⅱ」 ・データの集計「コンピュータ演習Ⅰ」 ・データの並び替え、ランキング「コンピュータ演習Ⅱ」

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

デジタル社会において、データサイエンス・AIが社会や専門分野でどのように活用されているか理解し、データ活用、プレゼンテーションの方法、情報の取り扱いについて修得することにより、データサイエンス・AIに関する様々な知識やスキルを日常生活や職業生活において活用することができる。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	51	人
(非常勤)	77	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

5	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	冲永 寛子
(役職名)	学長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	ICT委員会
------	--------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	帝京短期大学 ICT委員会規程
------	-----------------

⑥ 体制の目的

本学におけるICT教育および数理・データサイエンス・AIに関する体系的な教育の支援を目的とし、以下の事項を審議する。
 (1) 学生の学習、就職等学生支援のためICTを利用した教育活動の検討、及び機材等の導入の検討
 (2) ICTを利用した教育内容の改善のため、教職員を対象にした研修会等の開催
 (3) 数理・データサイエンス・AIに関する教育プログラムの管理・運営
 (4) 数理・データサイエンス・AIに関する教育プログラムの自己点検・評価および改善に向けた取り組み
 (5) 数理・データサイエンス・AIに関する教育プログラムのカリキュラムに関すること
 (6) その他、ICT教育推進にあたり必要と考えられる組織的支援

⑦ 具体的な構成員

服部 哲也	ICT委員会 委員長
井 美希	生活科学科 生活科学専攻 キャリアデザインコース 准教授
関山 美里	生活科学科 生活科学専攻 養護教諭コース 講師
林 麻由美	生活科学科 食物栄養専攻 栄養士コース 助教
村上 多佳子	こども教育学科 こども教育専攻 こども教育コース 准教授
田中 康博	ライフケア学科 臨床検査専攻 臨床検査コース 助教
森崎 綾	ライフケア学科 柔道整復専攻 柔道整復コース 助教
齋藤 真也	専攻科 臨床工学専攻 講師
須田 正豊	事務局 事務長
関口 ちとせ	事務局 特命課長
長谷川 聖記	事務局 学務室
	事務局 学務室

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	5%
令和8年度予定	10%
令和9年度予定	15%
令和10年度予定	20%
令和11年度予定	25%

具体的な計画

本プログラムに該当する「情報基礎演習Ⅰ」「情報基礎演習Ⅱ」「情報科学Ⅰ」「情報科学Ⅱ」「医療統計学」「コンピュータ演習Ⅰ」「コンピュータ演習Ⅱ」を、初年次における卒業必修科目として開講しており、全学生が当該プログラムを履修・修得可能な体制を整備している。

通信教育課程においても、これらの科目は卒業必修科目として位置づけられているが、履修時期については学生の裁量に委ねられているため、入学直後に履修するとは限らない。そこで年度初めのガイダンスにて当該科目を紹介し、数理・データサイエンス・AI教育の重要性を理解させ、初年次での履修を積極的に推奨していく。

なお、本プログラムは令和7年度より開講しており、プログラム開始から3年後には、卒業必修科目としての位置づけにより、履修率は100%となる見込みである。様式2②および様式3⑧における履修率との相違については、定員数との割合で算出しているためであり、本学の定員充足率が低いことから、履修率が相対的に低く算出されている。一方、実際の学生数との割合で算出した場合には、卒業必修科目であることから、履修率は100%となる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する各科目は、すべて卒業必修科目として開講しており、学科・専攻を問わず、学生全員が受講可能である。これにより、全学的な数理・データサイエンス・AI教育の普及を図っている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムを構成する各科目は、すべて卒業必修科目として開講しており、学科・専攻を問わず、学生全員が履修できる体制を整えている。

本学のホームページ上に「TJC 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム」特設ページを開設し、プログラムの目的、構成科目、修了要件等について詳細に紹介している。また、入学時のオリエンテーションにおいて、新入生全員に対して当該プログラムの内容説明を図っている。

さらに、本学志願者や入学者に対する本プログラムの認知度向上を目的として、学外への情報発信についても継続的に検討を進めていく。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラムでは、学生が確実に履修・修得できるよう、教員による授業内外での支援体制を整えている。授業担当教員は、履修学生が単位を修得できるよう責任をもって指導を行い、必要に応じて個別の学習支援も実施している。また、本プログラムの改善・進化を目的として設置されたICT委員会内には、「認定・資格ワーキンググループ」を設けており、各専攻から専任の担当教員が選出されている。この体制により、各専攻の授業担当教員との連携が円滑に行える環境が整っており、受講生の学習状況やよくある質問、課題等についても、教員間で迅速に共有できる仕組みとなっており、問題が生じた場合には、速やかに検討・対応できる体制を構築している。

さらに、入学時オリエンテーション期間中には、学生が学習に必要な環境整備として、Microsoft 365などのアプリケーションソフトの利用方法や、学内Wi-Fi接続に関する設定等について周知を行っており、学習開始時点から円滑な履修が可能となるよう支援している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムでは、学生が安心して学習に取り組めるよう、授業時間内外での学習指導および質問対応の体制を整備している。すべての科目において対面授業を実施しており、授業中に教員から直接指導を受けることが可能であるほか、授業時間外においても継続的な学習支援が行えるよう配慮している。

具体的には、全学生にMicrosoft 365を導入しており、TeamsやOutlookなどのツールを活用することで、担当教員との連絡や質問対応、資料の共有などが円滑に行える環境を整備している。また、担当教員はオフィスアワーを設定しており、学生はその時間を利用して教員に直接質問を行い、個別指導を受けることができる。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

ICT委員会

(責任者名) 冲永 寛子

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本プログラムの対象科目は全て1年次の卒業必修科目であり、初年次に単位認定者を除く全学生が履修する仕組みとなっている。 1年次に修得できなかった場合は、原則として次年度に再履修するよう指導が行われ、在学初期に修了要件を満たす運営体制を整えている。 授業終了後にはICT委員会ワーキンググループが単位修得率を集計し、委員会全体で結果を共有した上で改善策を検討している。また、学務システムにより履修状況・修得状況・出欠席状況を把握し、授業担当教員と連携するとともに、学生自身もWEBポータルで出欠席状況を確認できる仕組みを導入している。 令和7年度の単位修得率は専攻により67～100%であり、未修了者の多くは成績不良ではなく、授業開始後早期の出席不良が要因であった。これを踏まえ、担任による指導や面談、欠席回数に応じた保護者への早期通知を実施し、履修継続を支援している。
学修成果		本プログラムを構成する各科目では、学修成果に対する到達目標を設定し、筆記試験、レポート、小テスト、授業態度、授業内課題・提出物等を通じて到達度を評価している。各科目に合格することにより、当該到達目標を達成したと判断している。 さらに、授業終了後に実施する学生アンケートでは、「新しい知識や技術が身についたか」という設問に対して99%が「とても身についた」「やや身についた」と回答し、「到達目標を達成できたか」という設問に対しても70%が「とてもそう思う」「ややそう思う」と肯定的に回答している。これらの結果を学修成果の把握に活用するとともに、授業担当教員およびICT委員会で共有・分析し、教育内容や指導方法の改善に反映している。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度		学生アンケートの分析により、授業内容の理解度を把握している。「授業内容はわかりやすかったか」「学ぶ楽しさ、学ぶことの意義を理解できたか」「総合的に見てこの授業内容が理解できたか」といった設問に対し、肯定的な回答がそれぞれ85%、82%、78%であり、多くの学生は授業内容を理解できていると解釈できる。 一方で、4割の学生が課題の量や進捗について「多い」「早い」と感じており、さらに専攻間で差が認められたことから、授業のアプローチ方法を専攻ごとに工夫する必要がある。これらの結果は授業担当教員とICT委員会で共有し、改善策を検討していく。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度		本プログラムの対象科目は全て卒業必修科目であり、本学の学生は専攻ごとに必ず履修する仕組みとなっている。授業内で本プログラムの周知を行っていることから、後輩や他学生への履修推奨に関する特別な取り組みは実施していない。一方、学生アンケートでは「本プログラムが高校生が本学を選ぶ要因になると思うか」という設問を設け、他者への推奨度を把握している。その結果、61%が肯定的に回答した一方で、39%が「そう思わない」「どちらでもない」と回答した。これより、一定の教育的価値は伝わっているものの、その魅力が十分に言語化・可視化されていない可能性があるため、今後は学修成果や成長実感を可視化し、広報的工夫を進めていく。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況		本プログラムにかかる科目については全学1年次で卒業必修科目として開講しているため、履修者数、履修率向上に向けた計画は実施していない。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは2025(令和7)年度から開始したため、現時点では本プログラムを修了した卒業生はおらず、具体的なデータはまだ得られていない。本学の卒業生の就職先は医療、教育、福祉、サービス業、IT分野など多岐に渡る。キャリアサポートセンターでは卒業後3年以上経過した卒業生とその就職先企業に対し、卒業生の評価や獲得技能に関する聴取を継続的に実施しており、プログラム修了者が就職した際の活躍状況や評価を企業などに確認する体制は整っている。今後アンケートに、ITリテラシー・データサイエンス・AIに関する設問を追加することを検討する。 本プログラムの修了生が卒業する2026(令和8)年度以降からは、これらの調査結果をもとにプログラムの改善に努める予定である。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	本学では、卒業後3年以上経過した卒業生とその就職先企業に対し、卒業生の評価や獲得技能に関する聴取を継続的に実施している。しかし、現状では本プログラムの内容や教育手法に関する設問を含めていないため、産業界からの直接的な意見は得られていない。今後はアンケートへの設問追加など、産業界からの意見を聴取する方法を検討する。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムでは、学生の反応や理解度に応じて説明方法を工夫し、日常生活で接する事例を用い、数理・データサイエンス・AIの概念を生活と関連づけて紹介することで、学ぶ楽しさや意義を実感できるよう取り組んでいる。身近な題材を用いた能動的なデータ分析を取り入れ、実社会での活用事例を示すことで、学修内容が将来の業務に直結することを体験的に理解できる構成としている。また、教材や題材は継続的に見直し、最新の話題やトレンドを可能な範囲で取り入れるとともに、学生アンケート結果を踏まえた改善を行っている。学生アンケートの「学ぶ楽しさ、学ぶことの意義を理解できたか」の設問に対し82%が肯定的に回答していることから、学生が学修の意義を実感できる教育実践であると評価できる。今後も双方向型授業の充実と題材の工夫を継続する。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	本プログラムでは、学生アンケートやヒアリングの結果を踏まえ、教育内容の水準を維持・向上させつつ、分かりやすい授業の実現を重視している。ICT委員会を中心に、学生や社会のニーズと授業内容のすり合わせを行い、教材や指導方法、教育方法の開発・改善に取り組んでいる。 また、タブレット端末やコンピュータ演習室、アクティブラーニング教室等を活用した演習型授業を展開している。 学生アンケートでは「授業内容はわかりやすかったか」という設問に対し85%が肯定的に回答しており、授業の難易度は概ね適切と評価できる。今後は専攻特性に応じた進度調整や理解度の低い層への支援強化、補助教材や説明方法の多様化、理解度確認機会の増加を行い、継続的な授業改善に努めていく。

大学等名	帝京短期大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	TJC 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム	申請年度	令和8年度

TJC 数理・データサイエンス・AIリテラシー教育プログラム 取組概要

プログラムの目的

本学学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつそれらを適切に理解し、活用する基礎的な能力を育成する。

プログラムの学修成果

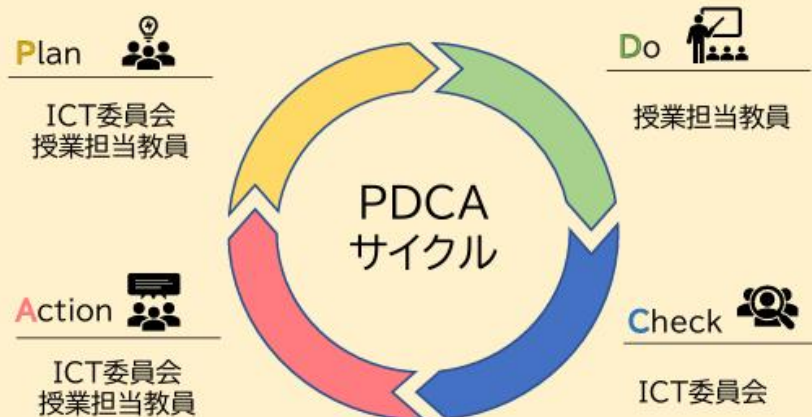
- ①デジタル社会において、データサイエンス・AIが社会や専門分野でどのように活用されているか理解する。
- ②データ活用、プレゼンテーションの方法、情報の取り扱いについて修得する。
- ③データサイエンス・AIに関する様々な知識やスキルを日常生活や職業生活において活用することができる。

プログラムの修了要件

所属する学科に応じたプログラムを構成する授業科目を修得すること。

専攻	授業科目	単位数
生活科学専攻	情報基礎演習Ⅰ	1
食物栄養専攻		
こども教育専攻	情報基礎演習Ⅱ	1
こども教育専攻 (通信教育課程)		
臨床検査専攻	情報科学Ⅰ	1
	情報科学Ⅱ	1
	医療統計学	2
柔道整復専攻	コンピュータ演習Ⅰ	1
柔道整復専攻(二部)	コンピュータ演習Ⅱ	1

実施体制



コンピュータ演習室(42教室)



アクティブラーニング教室(44教室)



帝京短期大学
Teikyo Junior College